

# 水稻の裏作にヘアリーベッチで減肥栽培(無肥料栽培)と土づくり 果樹園の草生栽培にも最適!

## 藤えもん、寒太郎、まめ助(ヘアリーベッチ)

### 【ヘアリーベッチの紹介】

- ヘアリーベッチは北海道の小麦後作緑肥で、暖地系のみめ助が普及し、都府県では寒地系の藤えもん、寒太郎が開発され、転換畑の裏作緑肥として普及しています。
- 生収量：3～4ト/10a、窒素含有量：4%前後、炭素率：12前後と分解が早いので、化成肥料のチツソで6～12kg(生育量による)と肥効が期待出来、減肥が出来ます。
- 作物体に石灰チツソの成分であるシアナミドを含有し、すき込まれるとアレロパシー効果(生物的他感作用)で雑草を抑制します。
- 深根性の作物で、富山県や八郎潟では排水性を改良、後作ダイズが多収になっています。
- レンゲに比べて生育が旺盛で、早めのすき込みで窒素すき込み量の調整が出来ます。
- 紫色の花が綺麗で、蜂花作物になります(写真)。
- 今春より北海道でも越冬する寒太郎が販売されました。



### 【各地の成績】

全国各地で行われたヘアリーベッチすき込み後の水稻の精玄米重の結果です。香川県ではコシヒカリ、こがねまさりが栽培され、慣行栽培対比：114%と極多収、慣行栽培より雑草も少ない結果です。熊本県や新潟県では慣行栽培と大差ない収量ですが、コスト面ではプラスになりました。石川県では慣行区対比：105%、穂肥改善区で116%と極多収でした。千葉県では有効態リン酸が少ない成田市では95%とやや低収、2年目で基準値内の佐倉市では116%と極多収、現地でも普及しています。

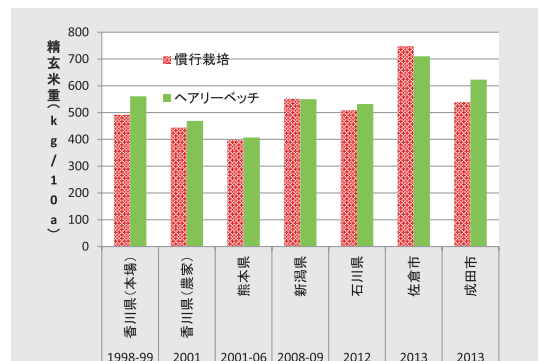


図1 ヘアリーベッチ後作イネ収量の収量比較(橋爪、2014)

### 【品種紹介】

- 藤えもん  
低温伸張性と耐湿性に優れ、生育が早いので早期すき込みに適する。寒太郎と合わせて、長期の開花リレーが可能で、ミツバチの蜜源として最適。府県の主体品種です。
- 寒太郎  
越冬性に優れ、積雪地帯や北海道の秋播き栽培に適します。晩生品種で、生育期間が長く、長期の雑草抑制効果が期待でき、果樹園の草生栽培にも適します。
- まめ助  
北海道の小麦後作緑肥で普及、生育が早く、多収です。雑草競争にも強く、草生栽培に最適です。特に都府県では春播きに適します。



写真1 5～10mおきの空畝で排水改良を!

## 【栽培方法】

- 播種量：3～5 kg/10a、無肥料栽培です。散播後、覆土鎮圧します。
- 播種期 北海道：5月～6月中旬、7月下～8月中旬（年内）  
9月中～下旬（寒太郎の越冬栽培）  
寒・高冷地：4月上～5月上旬、9月上～10月上旬  
一般地：3月上～4月上旬、9月中～11月上旬  
西南暖地：2月中～3月下旬、9月下～11月下旬

## 【栽培の注意点】

- 水はけの良い圃場を好むので、必ず排水対策を行ない、水路を作ります（写真1、2）。5～10mおきに空畝を切るか、暗渠対策を行ないます。
- 水はけが悪いと写真右のように根粒菌の付きも悪い赤ベッチになり、生育が劣るので注意して下さい。
- 淡路島のような冬季に暖かい地帯では12月播種も可能です。
- 3月下～4月上旬になると生育が旺盛になるので、すき込み遅れに注意します。
- すき込み量は坪刈（1m×1m）し、生収量で3kgなら3ト、4kgなら4ト/10aと計算します。
- すき込み時期はコシヒカリのような倒伏に弱い品種は2～3ト（膝頭まで、チッソで8～12kg）、強い品種には4ト（チッソで16kgすき込み）とします。2年目以降は更に早め（少な目）とします。肥効は土壤により異なり、このすき込み窒素量の50～80%です。
- 土壌診断でリン酸が基準値に不足する場合、リン酸の基肥施用を検討します。
- 雑草抑制効果はすき込み後3日以内に入水し、6～14日以内に田植えを行なうとアレロパシー効果で2週間位は期待できます。
- 生育が旺盛ですき込み量が多い場合、畑地状態で硝酸態窒素として分解させてから入水します。
- 夏場（最大分ゲツ期）の葉色で穂肥の施肥を決めます。砂質土壤の場合はヘアリーベッチの分解が早いので穂肥が必要です。
- 肥料代の節約と初期の除草剤の節約でコスト低減と多収が期待出来ます。

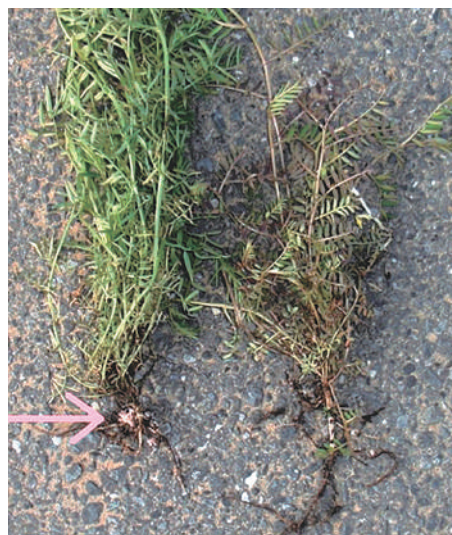
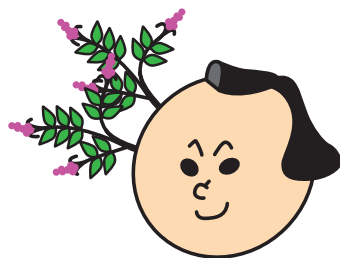


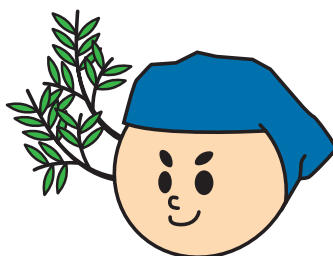
写真2 排水不良で生育が悪い赤ベッチ（右）

減肥とカバークロープは  
ベッチ3兄弟におまかせあれ



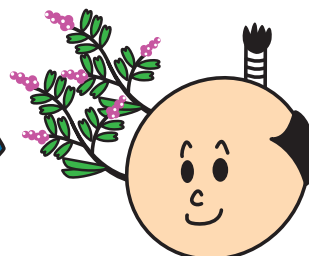
藤えもん

寒くても元気な  
早生タイプ



寒太郎

ゆっくりじっくり  
生育する晩生タイプ



まめ助

生育旺盛で  
多収な早生タイプ